



の天敵

クビアカツヤカミキリ



にご注意ください！

令和元年6月

特定外来生物※「クビアカツヤカミキリ」が
名古屋市内で初めて見つかりました。

※ 特定外来生物：生態系などに悪影響を及ぼす恐れがあることから
「外来生物法」に基づき、飼育や生きのままの移動などが禁止されています。

繁殖力が非常に強く、サクラ・ウメ・モモ・スモモなどに寄生して
幼虫が樹木の中を食い荒らし、衰弱／枯死させてしまうことから、
サクラ並木が大打撃を受けるなど社会問題となっています。

市内では当初、南部地域で確認されましたが、その後、他の地域で
も見つかっています。

成虫が見られるのは6～8月。成虫になるまで1～3年かかるため、
長い期間幼虫として樹木の中に潜んでいます。

被害の拡大を防ぐには、樹木を定期的に点検し、寄生された木を早
期に発見することが大切です。

詳しくは裏面「樹木点検のポイント」をご覧ください、被害が疑わ
れる場合は、なごや生物多様性センターへご連絡ください。



成虫



幼虫（幹の中から取り出
したところ）

クビアカツヤカミキリ

- 【学名】 *Aromia bungii*
- 【分類】 コウチュウ目 カミキリムシ科
- 【自然分布】 中国、モンゴル、朝鮮半島、台湾、ベトナム
- 【移入分布】 愛知県(2012年)、埼玉県(2013年)、群馬県・東京都・大阪府・徳島県(2015年)、栃木県(2016年)。
その他数県で成虫が確認されている。愛知県内の分布は名古屋市及び海部地域
- 【形態】 体長22～38mm。体全体は光沢のある黒色。前胸背板は赤色で側面にとげ状のコブをもつ。
触覚は黒色でオスは体長の1.7倍ほど、メスは体長より少し長い程度
- 【生態】 サクラ、ウメ、モモ、スモモなどの樹木に寄生する。幼虫は樹木の内部で1～3年過ごし形成層周
辺を食害、被寄主は衰弱し枯死に至る。成虫は6～8月ごろ出現する。海外の報告ではザクロ、
オリーブ、ヤナギ、コナラなど多くの樹種を加害するとされる
- 【その他】 特定外来生物として平成30年4月1日規制開始(生体の移動や飼育等は違法)



ご不明な点は
お気軽にお問い合わせ
ください

名古屋市環境局 なごや生物多様性センター

【電話】 052 - 831 - 8104

【FAX】 052 - 839 - 1695

【E-mail】 bdnagoya@kankyokuyoku.city.nagoya.lg.jp

樹木点検のポイント

- 被害樹木は「サクラ・ウメ・モモ・スモモ」に集中しています。
- 被害樹木からは「フラス」と呼ばれる幼虫のフンと木くずが混ざったものが排出されます。このフラスを見つけることがカギとなります。
- フラスは幼虫が樹皮に空けた穴から排出されます。穴の場所は根本付近が最も多く、2mを超えるような高さではあまり見られません。
- フラスの主成分は“生木の木くず”です。明るい黄土色やオレンジ色でゴマを薄切りにしたような1～2mmの粒子が、カリントウやひき肉状に固まっていることが多いようです。

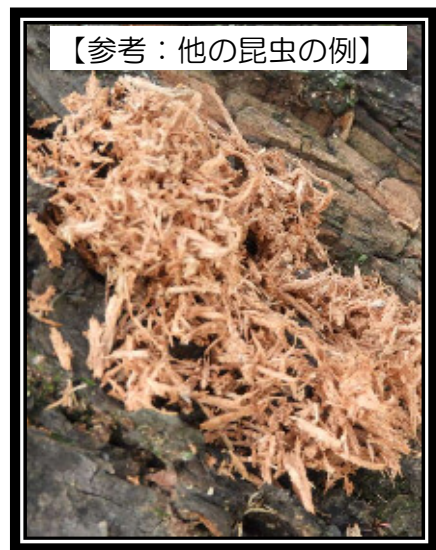
【参考写真】



幹の穴からひき肉状のフラスがぶら下がっている。
太さ約5ミリ



ひき肉状ではない例、粒子がゴマの薄切りに似る。
粒の大きさ1～2ミリ



【参考：他の昆虫の例】

粒子の形状で他の昆虫と見分けることができる。写真は在来種のカミキリのもの



根元付近では、幹から落ちたり根際から出たフラスが溜まっていることが多い